

かさかけ 公民館だより

編集
笠懸公民館編集協力員会
みどり市笠懸公民館
発行
みどり市笠懸公民館

〒379-2311
みどり市笠懸町阿左美1581-1
電話：0277-76-2211
FAX：0277-76-2836
Eメール：kouminkan
@city.midori.gunma.jp

ベビーキッズクラブは11月1日(土)に桐生警察署の協力のもと、交通安全教室を

親子で学ぼう 交通ルール

開催。15人の親子が参加しました。横断歩道の正しい渡り方、歩道の歩き方、車は急に止まらないことなどを、イラストを見ながら学びました。

その後、DVDで復習。

謹んで新年のお慶びを
申し上げます
令和8年



迎春



建設中の温泉施設「湯～トピア みどもスパ」(仮称)

今回は「やきいも」です。11月15日(土)、笠懸公民館の南側駐車場を会場に14人の親子が参加しました。

まずは自宅で蒸してきた芋を落ち葉の山に隠します。準備が整ったらいよいよ着火、たき火のスタート!! 焼

やきいも
おいしいね!!

子どもたちは真剣に話を聞き、静かに映像に見入っていました。

最後はパトカーを見学し、記念撮影。中には怖がつてなかなか乗れない子もいましたが、遠くから眺めたり勇気を出して座ってみたりする姿も見られました。

親子で交通ルールを学ぶ貴重な体験でした。



▲ハイチーズ📷



▲おいしく焼けたかな??

きあがるまで、みんなで縄跳びや、じゃんけん列車をして遊びました。

頃合いを見て焼けた芋を取り出しました。公民館に会場を移し、みんなで試食。アツアツのお芋をおいしそうに笑顔でお張っていました。

最後は「英語であそぼう」の時間。音楽に合わせて体を動かし、英単語を聞いてカードを取るゲームなどを楽しみました。

秋の味覚と遊びが詰まった時間になりました。

※事前に消防署へ必要書類を提出。安全に十分配慮したき火をしました。

2日連続の学問探求

大人も楽しい理系講座シリーズと銘打った笠懸公民館主催の講座が、11月15日(出)・16日(日)の2日間にわたり開催されました。どちらも以前実施した中高生向けの講座を、大人でも楽しめるように内容を再構築したものです。

数学って 楽しいね!!

15日は「大人も楽しい数学のヒミツ」と題し、24人が参加。講師は岡田行宏さん(元笠懸中学校長)で、日常生活に潜む数学の面白さを分かりやすく紹介しました。

「なぜマンホールの蓋は丸いのか?」という身近な事例からスタート。「作業効率がよく、安全性も高い」という理由を示し「私たちの身の周りには数学的



▲岡田さんの話に夢中

思考が生きている」と講師は話しています。

日本の数学史にも話が及び、平安から鎌倉時代には、建築などで数学が活用され、江戸時代には和算として大きく発展しました。江戸の人たちも解いていた「ねずみ算」の問題に参加者も挑戦。さらに、群馬県内に多く残る算額(和算の問題を記した額)も取り上げ、当時は数学の腕前を披露する「自慢大会」のような文化があったと説明しました。

後半は、日常に活かされている数学を紹介。喫茶店で周囲の雑音が気にならない原理を、音の波形やノイズキャンセラーの技術から解説。また、5枚の紙を使った二進法、黄金比を意識した写真撮影、GPSと三

平方の定理を用いた水平線の考え方など、生活と数学のつながりを体験的に学びました。

講師の岡田さんは「数学は生活に密接につながっています」とまとめました。参加者にとって、数学の魅力を感じることができた講座でした。

未来は明るい!! 大人のための理科講座

16日は「大人も楽しい理科の世界」と題し、31人が参加。環境フェアのイベントの1つとして開催され、講師は群馬大学理工学部教授の板橋英之さんです。

研究成果から今では商品化されている事例などが紹介されました。通常は廃棄される物質を、再利用したり減らしたりすることを目指すといった研究が多く、間伐材や廃材を利用したCO₂を吸着させるブロックやサングライト鉱石を活用した入浴剤、天然由来の土壌改良剤を用いて作られた米や日本酒など様々。研究途中



▲講師の板橋英之さん

の失敗談なども交えた軽快なトークに、参加者からは時折笑い声も漏れていました。

最後は、最新の研究内容「アルツハイマー型認知症予防サプリ」の開発秘話です。コンニャク製造過程で廃棄されるコンニャク芋の皮を原料に作られるサプリで、受講者にも商品化のためのクラウドファンディングに協力を呼び掛けていました。

紹介された事例には、地域経済の循環まで考えられているものも多くありました。研究成果が世界中に広がり、地球環境が改善されるのでは!? そんな未来を想像させてくれる講座でした。

実りある 公民館大会を目指し

第3回みどり市公民館大会実行委員会が11月27日(木)に多世代交流館で開催されました。

公民館大会の日程は3月15日(日)午後1時30分から。会場は東公民館です。テーマは「住んでよかった、出会えてよかった」地域をむすぶ、人をむすぶ公民館。公民館の「むすぶ」という機能が地域で果たす役割について、みんなで考える機会にしようと話し合いました。

東町で活動するグループに注目し、「エンジェルベール」(果の会)「大畑しだれ桃の会」の3団体の活動発表と、日本女子大学人間社会学部教育学科准教授の荻野亮吾さんの講演を中心に討論などもできればと考えています。

詳細については次回の会議で協議する予定です。





▲参加者と触れ合う大野さん

考え方を変えて 人生を楽しく

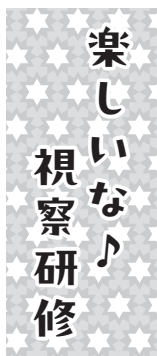
高齢者大学第5講が11月6日(木)、笠懸野文化ホールで開催されました。テーマは「分かつちやいるけど変えられない生活習慣・行動科学の力で健康に」、講師は群馬医療福祉大学看護学部教授で副学部長の大野佳子さんです。

前半のテーマは「人が変わるためには、重要度と自信度を上げることが大切」。重要度は自分の行動による損得。自信度は小さな成功体験の積み重ねで上げられます。この2つを意識し、自分は変われるという「自

己効力感」を高めましょうとまとめました。

後半は「なぜ変われないのか、そのワケ」について解説。人が変わらないのは「楽をしたいが損はしたくない」という心理傾向が関係しているそうです。例えば「食べ過ぎた」に対して「健康という得を逃した」と考えを変換すると、心理傾向がブレーキになり、対策に繋がります。

「この講座で、少しでも人生を楽に、楽しく生きていたきたい」と講師は話し、幕を閉じました。



第6講の視察研修が11月20日(木)に行われました。当日は天気恵まれ、バスは参加者70名を乗せ、埼玉県行田市の水資源機構利根導水総合管理所へ出発しました。



▲童心に帰る工場見学!!

利根導水路の説明を受けた後は、外に出て大堰の見学です。地下には魚道があり、秋はサケの遡上が見られるそうです。しかし、2013(平成25)年をピークに、遡上数は年々減少。この日は見る事ができませんでした。

午後は北本市にあるグリコピア・イーストで工場見学。工場に入るとお菓子の甘い香りが漂います。製造レーンの他、参加型のO×クイズでグリコの歴史や原材料について学びました。お土産コーナーには限定商品もあり、カゴいっぱい買い物をしている参加者のみなさん。学びも、お土産もたくさん視察研修でした。

より良い 文化祭に向けて

第3回笠懸地域文化祭実行委員会(金子和夫実行委員長)が11月19日(木)に開催されました。

今年は、みどり市内小学校の運動会と日程が重なったことや、両日の天候不順などにより、例年より来場者が少なく感じました。

実行委員会では、部会ごとの反省点や良かった点、来年に向けての意見交換が行われました。主な意見は次のとおり。

- 各部会で全体の流れを確認し、実施した方がよい。
- 市民で作る文化祭なので、

他のサークルへの関心や協力を深めた方がよい。

●来年の『市政20周年』にちなんだ企画などを検討して欲しい。

これから子どもから大人まで楽しめる文化祭に、そして日頃の成果を発表する場、誰もが主役の文化祭にしていきたいですね。



▲今年の反省を来年に!

開催 第133回11月の広場

日時・1月17日(土) 13時30分～14時30分

会場・笠懸公民館 1階ロビー

出演・千紫万紅、スポーツクラブくれよん

ダンスチーム千紫万紅とは

2006年に結成したみどり市初のよさこいダンスチーム。小学生から60代の幅広い年齢層で和氣あいと活動しています。



みんなで学ぼう 防災対策

市民講座第2講が11月5日(水)に笠懸公民館で開催されました。日本防災士会群



▲快適なダンボールベッド

馬支部の防災士・福田力さんを講師に「防災対策と簡単に作れる便利グッズを学ぼう!」と題した講演で、参加者は24人でした。

前半は地震・水害・土砂災害発生時の行動、気象情報・災害情報の収集方法や食事とトイレの問題を学習。後半は災害時に使える新聞紙スリッパを作ったり、避難所で使われるダンボールベッドを参加者が組み立てたりしました。

て新聞紙スリッパは便利!という感想がありました。いざという時のため、防災の知識を備えておけるといいですね。

備えあれば憂いなし 市民講座で防災対策

第3講「災害時の対策法を学ぼう!」が11月22日(土)に開催されました。参加者は23人。埼玉県鴻巣市の「能美防災そなえ埼玉県防災学習センター」へバスで行く視察研修です。防災学習センターは、災

防災を考える ⑥ 災害ボランティアセンター

先日、みどり市災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加しました。災害ボランティアセンターとは、災害ボランティアと協力して被災者の生活を支援し、またボランティア活動がしやすいように調整をする場です。

被災者や地域ができるだけ早く元の生活に戻れることを目的に、地元の社会福祉協議会を中心に運営します。被災状況を被災者から聞き取り、家の片付けや物資の仕分けなどのニーズを確認。各地から訪れるボランティアを適材適所に派遣します。訓練は、運営側とボランティア側両方が体験できるものでした。ボランティア元年と言わ

れた阪神淡路大震災から31年、その時に災害ボランティアセンターも設置され始めました。非常時の自助・共助・公助に加え、被災者に寄り添う協働という考え方も大切にしたいですね。



▲大地震の揺れを体感!!

害に強い地域づくりのため造られた施設。4つの体験から、天災のエネルギーの凄さを体感しました。

／S)

- ①地震体験(震度7)
- ②暴風体験(最大風速30m)
- ③消火体験
- ④煙体験

また、映像をとおして、自助・共助の大切さを知る機会となりました。

参加者にとっては有意義な時間となったようです。主な感想は次のとおり。

- 体験学習をし、災害への備えの大切さが分かった。
- 地震対策の必要性を感じた。
- 防災グッズの展示もあり、色々知る事ができた。

公民館のありかたを 考えよう

みどり市公民館運営審議会(公運審・近藤巧委員長)の第2回全体会が、11月25日(火)に多世代交流館で開催されました。

公運審は、公民館のあり方や公民館と地域・住民との関わりなどを話し合うとても重要な機関です。全体会の他に、地域特性なども考慮し、笠懸・大間々・東の各館ごとに部会を開催しています。

議事では各館における運営状況と、部会での協議概要について報告があり、委員で情報を共有しました。その他、現状の公民館利用ルールの見直し、令和8年度公運審運営方針についても意見交換しました。今後は各部会で協議を重ね、年度末の全体会で今年度の活動を総括する予定です。



異文化を食す 料理教室開催

多世代・多文化共生事業の企画として「世界の料理教室」（主催・みどり市社会福祉協議会）が、11月1日（土）に笠懸公民館で開催されました。笠懸町でカフェを経営する久保陽一さん・マリコールさんご夫妻を講師に迎え、フィリピン料理を教えてもらいました。

今回作る料理は鶏肉と卵を煮込んだ「チキンアドボ」と、豚のひき肉等を具にした春巻き「ルンピア・シャンハイ」の2品です。

「チキンアドボ」はじっくり煮込んだ鶏肉の柔らかい食感と、フィリピン醤油



▲料理って楽しいね😊

とお酢、黒糖の甘酢風味がクセになる一品です。

「ルンピア・シャンハイ」はフィリピンではお祝いの席でも、お皿に山盛りで出されるほどの定番料理。カリカリの揚げたてを甘辛チリソースでいただきます。

フィリピンは海上で日本や中国、ベトナム他多くの国と国境を接し、スペインの植民地時代も長かった影響で料理も多民族的です。

今回教えてもらった料理はどちらも日本人好みで、特に「チキンアドボ」の煮汁をご飯にかけると食が進むそうです。

当日は親子で参加した人も多く、外国料理を通じて異文化交流を楽しみました。

健幸アンバサダー になろう

「健幸アンバサダー養成講座」（主催・みどり市健康管理課）が11月29日（土）に、市役所大間々庁舎で開催され、多くの市民が受講。講師は桐生大学・桐生大学短期大学部名誉教授の山科章



▲みんなで筋トレ

さんと桐生大学医療保健学部教授の増田さゆりさん。

健幸アンバサダーとは「健康に関する知識などを正しく身近な人に伝える伝道師」。食生活の見直しや有酸素運動などで健康な身体づくりを目指すことで、増え続ける医療費の抑制につながる取り組みです。

健康とは「心と身体」が健全で、元気で社会との関わりを持つことを指すようです。

また、車生活と糖尿病の意外な関係について言及。車利用率の高い県は糖尿病患者も多いようです。歩いて10分ほどの場所には、徒歩を推奨していました。サルコペニア（加齢による筋力低下）を知っていま

すかと問いかかけ、「よくつまづく」「歩くのが遅くなった」は※フレイルの前兆といえます。人は年齢を重ねるごとに筋肉が衰えます。サルコペニアの予防に筋トレ体操が紹介されました。「太ももの筋トレ」「腕立て伏せ」「背中の筋トレ」などを講師の指導により体験しました。

「健幸アンバサダー」は大切な人の心に大切な情報を伝えます。そのため、伝える人が健康であることが求められています」とまとめ、まずは身近な人に勧めてはと話を閉じました。

※フレイル：加齢により心身が老い衰えた状態

地域の先生に教わる 笠小芸術体験教室

笠懸小学校（加部豊校長）では、学年ごとに興味があり、やってみたいことを体験する「芸術体験教室」に今年度初めて取り組みました。また、その先生役には、笠懸公民館で活動している



▲マジックできるかな？

サークルの人たちが協力しました。

11月12日（水）は2年生の「笠懸マジック愛好会」によるマジック講座でした。

前半は愛好会の先生が音楽に合わせてマジックを披露。「え〜すご〜い！」と歓声が上がリ、子どもたちは真剣に見ていました。

後半は実際にひも2本を使った簡単なマジックを教えてもらいました。

マスターした子どもたちは、みんなの前に立ち堂々と発表していました。

他の学年でも「ペン習字」や「フラダンス」を体験しました。

子どもたちにとって心に残る授業になったようです。学校と地域の協働、大事ですよ。

昔を体験 岩宿ムラ収穫まつり

「岩宿ムラ収穫まつり2025」が11月9日(日)に、岩宿博物館東側・岩宿人の広場で開催されました。雨模様でしたが、多くの来場者でにぎわいました。

会場では、石臼での粉ひき、くるみ割り、弓矢体験、石器・まが玉作り、どんぐりパン作り、火おこしなど、昔の暮らしを体験できるイベントなどが多数行われていました。なかでも動物などが描かれた的に挑戦する弓矢体験は子どもたちに大人気でした。

「つめりっこ」(古代米のすいとん)が容器代10円で提供され、土器焼きの炎



▲ぺったん！ぺったん！

で暖を取りながら味わう参加者もいました。

古代米のもちつきでは、「よいしょー」の掛け声に合わせて、子どもから大人まで楽しみながらもちをつき、つきたてのおもちは来場者へ振る舞われました。記者もいただきましたが、古代米のおもちは普段食べ

秋の恵みに感謝 里芋掘り体験

「岩宿の里みつこクラブ」は11月22日(土)に、岩宿の里で里芋掘りを行いました。当日は晴天に恵まれ、とても過ごしやすい気候。参加者は元気に里芋掘りに挑戦しました。

まずは掘り方のレクチャー。子ども優先で、シャベルに体重をかけながら丁寧に掘り進めました。掘り出した里芋は一度トラクターに集められ、その後みんなですそを落とし、ヒゲ根を取り除いてきれいにしています。夏の40℃近い猛暑の



▲サトイモいっぱい!!

影響か、今年は小ぶりかわいらしいサイズのものが多く見られました。収穫の一部は、がんばった参加者にお土産として配られました。

作業後は恒例のご飯タイム。古代米研究会の皆さんが、心のこもった温かい料理を振る舞います。里芋のシチューや、茨城県久慈地方の郷土料理「凍みこんにやく」を使った一品。そして古代米の黒米で作られた栗ご飯おにぎりなど、秋の味覚が並び、心も体も温まるひとときとなりました。

今年も開催 青少年健全育成大会

みどり市青少年健全育成大会が11月29日(土)に、笠懸

公民館交流ホールで開催されました。大会では非行防止標語コンクールの入選者表彰が行われました。

また、みどり市少年の主張では、笠懸南中学校3年の須田汐音さんの「わからないままでいい」の発表に、会場は大きな拍手に包まれました。

その後、翻訳家の上杉隼

区民参加の文化祭 笠懸町第2区

第5回2区文化祭が11月15日(土)・16日(日)の二日間、笠懸町第2区公民館で開催されました。絵画、書、写真、手芸、工芸、フラワーアレンジメントなど区民の力作が多数展示されました。



▲作品見ながら井戸端会議

人さんによる講演会「実況中継『永遠の英語学習者の仕事録』」が行われました。

非行防止標語コンクール

◆最優秀賞 (※敬称略)

小学生の部・野村聡介(笠懸北小)

「ダメなこと 「ダメ」と言える
かつこよさ」

中学生の部・馬場ももか(笠懸南中)

「助け合い みんなで繋ごう
感謝の輪」

他 優秀賞10人

今回の文化祭は15日に防災訓練、スポーツレクリエーションを同時開催。地震体験車、災害用トイレラック展示、消火訓練などを実施。炊き出し訓練ではカレーライス200食、備蓄食料の試食などの他、防災パン食い競争、靴飛ばし、グラウンドゴルフ、体力測定などで賑わいました。

16日(日)もフリーマーケット、焼きそば販売、ポップコーンに綿あめ、横町太々神楽、八木節と盛りだくさん。

地区の文化に触れ、災害に備え、体を動かすなど、多くの区民の交流の場となりました。

始めませんか! ポールウォーキング

☆講習会参加者を募集☆

日 時 2月11日(水) 午前10時～正午

会 場 笠懸公民館 交流ホール

対象 / 定員 市内在住・在勤の人 / 20人

参加費 250円 (※参加人数により変動します)

申込 / 問合せ 藤生正司 / TEL 0277(76)2850

その他 当日は歩きやすい服装と運動靴、飲み物持参
※ポールは貸し出します

ポールウォーキングとは

スキーストックのようなポール2本を使って歩き、全身運動による筋力アップや姿勢改善、転倒予防に効果的です。

サークル化も
検討してます!!



富弘美術館 詩画の公募展がやってくる!

講座『富弘美術館を知ろう!』開催

修繕中の富弘美術館から、詩画の公募展が笠懸公民館に来ることになりました。せっかくの機会ですので、星野富弘さんの作品の中心である詩画がどのようなものなのか、入選作品を見ながら学んでみませんか?

入場無料
申込不要

第1回 1月24日(土)

詩画とは? 公募展への想い

講師: 富弘美術館 聖生 清重 館長

第2回 2月11日(水・祝)

鑑賞のポイント

講師: 富弘美術館 相崎 ちひろ 学芸員

第3回 2月21日(土)

富弘作品の朗読を聞いてみよう

講師: 果の会

各回とも、会場は笠懸公民館、時間は14:00～15:00

こえの ひろば

このコーナーは、市民のみなさんの交流の場です。サークルの会員募集やイベントのお知らせ、投稿など、何でも原稿をお寄せください。(しめきり毎月10日)

テクテクお城歩き(58)

土浦城 歩遊人

茨城県土浦市にある土浦城はJR土浦駅から徒歩15分の場所に位置し、続日本100名城の一つです。資料によれば、城は室町時代後期に若泉氏が築城したと伝えられています。

現在の城は江戸時代に整備されたようです。江戸時

代中期以降に譜代大名土屋氏が代々城主となり、土浦藩領は9万5千石となり常陸国では水戸藩について、大きな領地を支配していたとあります。

櫓門は霞門と共に江戸時代の建造物で1656(明暦2)年、譜代大名朽木氏が土浦城主のとき改築され、本丸に残る櫓門として関東地方で唯一現存するといわれます。また、火災で失われ



▲土浦城 櫓門

た東櫓の復元、そして台風の被害を受けた西櫓なども修復され見所の一つとなっています。

笠懸短歌サークル

十一月例会より



新米にもち麦混ぜるを迷ひつつ今日だけ味はひ光る米食む

小春日の真昼を一人春咲きの祖母の好みの花の手入れす

山峡に雲の流れて幻か湖におぼろのもやへる小舟

虫いくつ昨日もけふも潰したり畑に立つ身のこれも性として

鬼やんま・塩辛とんぼ・糸とんぼ見ることのなく図鑑を開く

上村 征子

加藤 康子

久保田茂子

関口 定夫

平山 勇

かさかけ どうぶつ家族(23)

杏ちゃん (6区)

杏ちゃん(8歳)はその

外見から初対面ではちよつと怖がられてしまいます。

ピンっと尖った耳にスラ

リと長い※マズル、鹿のよう

うに引き締まった体に深い

胸。堂々とした体軀は見

て惚れ惚れしますが、小

型犬の飼育が多い昨今では

犬種のイメージが人に先入

観を与えてしまいます

いかつい大型犬は怖い印

象を持たれやすいですが、

実際は温厚で友好的な犬種

が多く、獴猛なイメージは

むしろ飼う人側の問題です。

愛情たっぷり育てられ

た杏ちゃんもとても懐こく甘えん坊で、ボール遊びが大好きです。

小型犬とも仲良く遊べますが、手加減なしに遊べる大型犬に会えるとうれしくてたまりません。

小型犬には優しく接しても、顔馴染みの大型犬には全力で挨拶します。うれしくてテンションが上がるとつい吠えてしまいますが、威嚇ではなく、嬉しくて気持ちが高ぶる興奮吠えです。

そんな杏ちゃんをよく知る犬友たちは散歩で行き会えば、皆尻尾を振って近づき、うれしそうに挨拶をします。

いつもフレンドリーな杏ちゃんを見かけたらぜひ犬友になってください。

※マズル：動物の鼻と口、顎を含む顔の突き出た部分



▲杏ちゃん

四季の会 十二月句会



寒空に鐘の音ひびき幸願ふ
雑踏のイルミネーション聖夜かな
尻をふり両手で掴む大根抜き
独り住む部屋のドアのしめ飾り
冬の薔薇ふれば過去の香を放つ
いよいよに熊のうわさか文化の日
歳重ね孫の二十歳を祝ふ冬
海の寺あんこう担ひで来る檀家
朝寒や鏡に写る老ひた顔
不思議だな渋柿ほせば甘くなる
つややかに黒豆を煮る師走かな
雑炊をたっぷり作り暖まる
メジナ釣り親子でならぶ波高し
風邪つびきの患者の増ゆる里の院
泥ネギを妻の実家へ手みやげに
古き友おでん熱燗すすむ
節料理なにも作らぬ独り者
年用意孫の好みのきんぴらを
冬の月愛猫いとし過疎の村
湯たんぽを夫の布団に早やばやと
根菜をゆっくり煮込む冬日かな
初霜の朝の出勤陽がのぼる
散歩道稲刈り後のいい匂ひ
夫に風邪うつされ寝込む日曜日
白菜の無人販売とき静か
神棚にお餅を供へ年用意
焼き芋の差し入れうれしケアホーム
喜多院の賑をふ師走五百羅漢
冬の雲ながめて登る山の寺
干し菜汁嫁の味付けいと旨し
病室の窓の外には冬の月
冬帽子うしろ姿に見覚えが
烏瓜今も燃えてる吾が想ひ

高橋光栄津 牛房 敏秋 江原 大樹 山本 草秋 江原 隆鉞 泉 純佳 中村 祐月 霜中 隆鬼 中村富喜女 江原 麗華 竹内 光春 宇野 椿 細川 由桂 櫻本 千春 細川 和勘 佐藤由美香 高野 春蝶 横倉 雅 糸井 梅光 高野 光詢 前原 紫蘭 宇野 順雪 梶沢 春蘭 糸井 初音 小林 狐一 腰塚 昇勘 徳田 夕子 新羅 光海 韓 百日紅 宇野由希子 小林 華笑 宇野 勘大 金 光月

ちょっと一息



自分はまだガラケーといわれる携帯電話を使用している。お気に入りの携帯で18年くらい同じ機種を愛用している。来年の3月には使用できなくなるメッセー

ジが電話をかける度に流れ、交換を促がされる。

「今時スマホを持つていないと、不便でしょ？」とい

いわれるが、もともと電話

機能しか使っていなかった

ので、何の不便さも感じな

い。ネットやメールはパソ

コンで、カメラはデジカメ

で対応してきた。

しかしながら、進化を続

けるデジタル機器は長く愛

用するには向いていないよ

うだ。常に進化し続けるモ

ノは新しいモノがいいのか

もしれない。

今やスマホは、生活の一

部になりつつあり、インフ

ラともいえるが、スマホ依

存という言葉もあるように、

暇さえあればスマホを見て

いる光景は持つてない人に

は異様にさえ感じることも

ある。便利になると弊害は

起きるものだが、自分のス

マホデビューもそろそろか。

(Kaz)